



ルネサンスとバロック

赤れんが館の正面両端の円筒状構造はイギリス・ルネサンス様式で、わずかに張り出した入口などは、イタリア・ルネサンス様式を取り入れています。また、銅板ぶきの越屋根などは北欧式です。

バロックの手法は、内部の装飾にとり入れられています。花かご、月桂樹、忍冬唐草、アカンサス葉、卵舌文様のモールディング(縁飾り)など複雑に組み合わせられた装飾となっています。

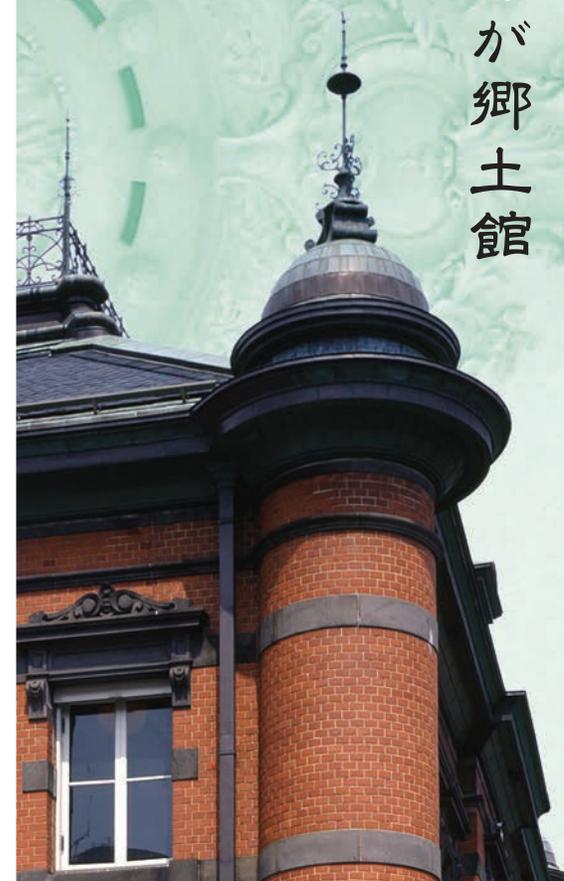
貴賓室

月桂樹、忍冬唐草、アカンサス葉、卵舌文様のモールディング(縁飾り)など複雑に組み合わせられた装飾となっています。



赤れんが館と管理棟(南東から)

秋田市立赤れんが郷土館 勝平得之記念館



AKARENGA-KAN MUSEUM
Katsuhira Tokushi Memorial

秋田市立 赤れんが郷土館 勝平得之記念館

- 観覧時間 午前9時30分～午後4時30分
- 休館日 年末年始(12月29日～1月3日)、展示替期間等
- 観覧料 一般310円、高校生以下無料 / 団体(20名以上) 240円
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。
- 共通観覧料 (秋田市民俗芸能伝承館・旧金子家住宅との共通観覧料)
一般370円、高校生以下無料 / 団体(20名以上) 290円
- 年間パスポート 770円
- 交通 中央交通バス / 川反入口下車徒歩1分



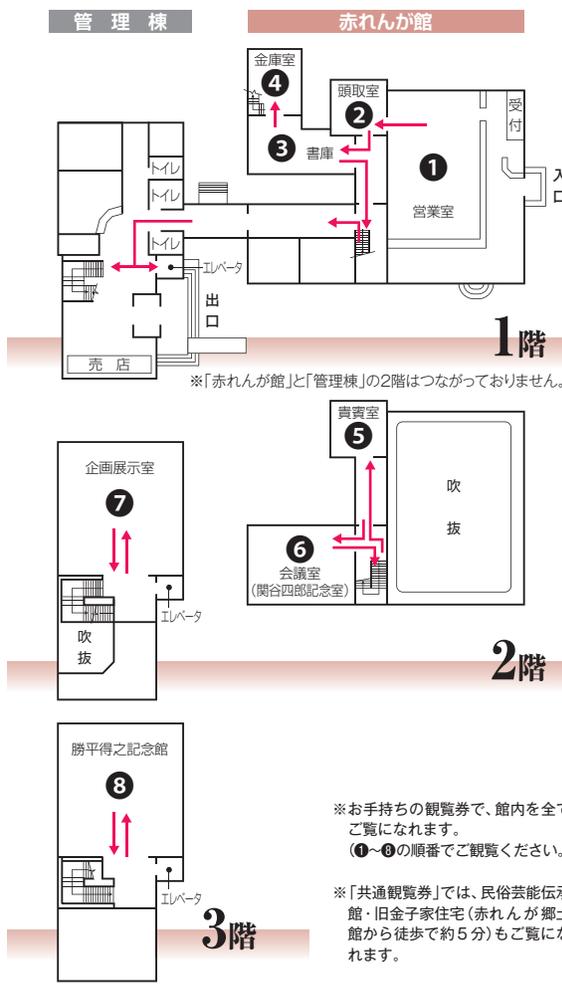
〒010-0921 秋田市大町三丁目3-21

TEL 018 (864)6851 FAX 018(864)6854

<https://www.city.akita.lg.jp/kanko/kanrenshisetsu/1003617/index.html>

- お願い
- 危険物や動物の持ち込みを禁じます。
 - 館内での喫煙、飲食はできません。
 - 紙くずなどをすてないでください。
 - 展示品に手をふれないでください。
 - 入館中は静かに観覧ください。
 - 写真撮影については受付にお問い合わせください。

館内案内図 Route Guide



赤れんが館

旧秋田銀行本店本館／平成6年12月国指定重要文化財



営業室

ルネサンスとバロックの香り……。

赤れんが郷土館は、赤れんが館、管理棟、収蔵庫の三つの棟からなっています。このなかで、赤れんが館は貴重な文化遺産です。赤れんが館は、当時の秋田県技師山口直昭が外部を、東京の星野男三郎が内部を設計し、旧秋田銀行本店本館として明治42年6月に着工、明治45年7月に完成しました。建設にあたっては、地盤が軟弱なため、基礎工事は入念をきわめ、これに工期と費用の半分を注ぎ込んだと言われています。過去何回か起こった大地震にもびくともしませんでした。

れんが造り、2階建の建物の外観は、ルネサンス様式を基調にし、土台は灰色の男鹿石の切り石積み、1階が磁器白タイル、2階が赤れんがという華麗さが特徴です。また、内部はバロックの手法を取り入れ、腰材には深緑色の蛇紋岩を用い、床がタイル、応接室の用材が寄木細工、2階への階段が白大理石という豪華なものです。

このように内外装に趣向をこらした赤れんが館は、昭和44年3月まで秋田銀行の店舗として使用され、長い間秋田市の名所として親しまれてきました。

昭和56年5月秋田銀行から同行創業100周年および秋田市制施行90周年を記念して寄贈されました。市では明治時代の代表的な洋風建築を後世に伝えるため修復工事にとりかかり、翌57年3月工事は完成しました。

その後、市民をはじめ多くの人々に親しまれる施設として、赤れんが館内に資料を展示する一方、管理棟の新築、収蔵庫の改修、構内の整備など施設の整備充実につとめ、昭和60年7月秋田市立赤れんが郷土館として開館しました。

勝平得之記念館



勝平 得之(1904-1971)

郷土秋田を愛し、意欲的に創作活動を続けた勝平得之は、明治37年秋田市鉄砲町(現・大町6丁目)の紙漉業の長男として生まれました。そして、家業を手伝いながら木版の絵・彫り・摺りの三つの工程を独学で習得し、独自の色摺り版画の技法を生み出しました。郷土秋田の自然や風俗を版画にした独特の作風で多くの人に親しまれている勝平の作品は、昭和6年の帝展入選以来、数多くの美術展に入選し、海外でも高く評価されています。



雪の街(昭和7年)



天神様(秋田風俗十態)(昭和13年)



いろいろ(秋田風俗十題)(昭和14年)



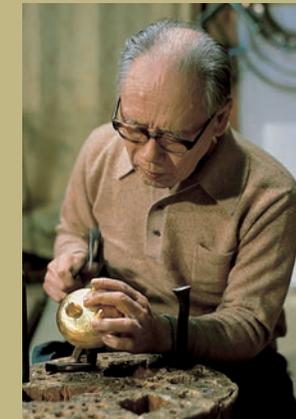
刈あげ(秋)[米作四題](昭和26年)



かまくら(昭和30年)

SEKIYA SHIRO MEMORIAL

人間国宝 関谷四郎記念室



鉄接合花瓶(昭和60年)

関谷 四郎(1907-1994)

鍛金家・関谷四郎は、明治40年秋田市に生まれ、市内の金銀細工店で修業を積み、昭和2年東京の鍛金家・河内宗明氏の内弟子となりました。

独立後は、銀や銅、鉄など異なった金属を接合させる「接合(はぎあわせ)」の技法を取り入れ、昭和52年には国の重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝の認定を受け、日本金工界に大きな業績を残しました。

長い修練によって得られた独自の技法を駆使しながら制作された関谷の作品は、斬新かつ流麗なフォルムとみずみずしい情感を感じさせます。

赤れんが館の2階にある関谷四郎記念室には、鍛金による作品の展示をはじめ、東京・板橋の自宅のアトリエを再現し、制作時に使用した道具類も展示しています。また、業績と制作の過程を紹介するビデオの放映や、作品に関する情報提供も行っております。